（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	アイリスクラブ玉造			
○保護者評価実施期間	2024年　11月　1日	～	2024年　12月　28日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	23名	（回答者数）	21名
○従業者評価実施期間	2024年　11月　1日	～	2024年　12月　28日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	10名	（回答者数）	10名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年　2月　1日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保育士や教師等の経験を得た指導員が対応している。また、言語聴覚士等の資格を生かして、児童に関わっている。	事業所内イベントでは、指導員の経験を生かした活動を行うことがある。また、個別療育では資格を生かして療育を行っている。	レクリエーション活動の難易度を児童の発達レベルに応じて最適化していく。また、児童一人一人の日々の様子に応じて、課題を変えていく。
2	年齢差が大きくなく、ある程度共通した支援内容・レクリエーション活動を集団療育で取り組めている。	発達段階や年齢に応じてグループに分かれて支援を行っている。また、児童一人一人に応じて目標を決めて、行っている。	より細やかな療育の課題・レクリエーション活動に合わせて支援の提示や促しを行っていく。
3	児童や保護者のニーズに応じて、個別療育と集団療育の両方を取り入れた支援を行っている。	個別療育での様子と集団療育での様子を鑑みて、支援内容・レクリエーション活動の内容を決めている。また、児童の様子を見て、課題を考えている。	集団療育での様子をより細かく、具体的に保護者に共有できるよう努めていく。お迎えの保護者には使用した教材を見ていただき、具体的に伝える。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児童の見守りでの関わり方や言葉がけのスキルが不足している。児童の様子を見て、言葉がけの内容を変えるのが難しい。	児童一人一人に合った手法、言葉がけの確立が出来ていない。また、言葉をかける時のタイミングや場所を間違えている。	他の指導員の対応から学ぶ。他の指導員の関わり方を見て、児童への関わり方を見直す。
2	外出支援がない。地域の子どもたちとの関わりや触れ合うことが少ない。	指導員の技量不足や外出できる体制が整っていない。また、低年齢の児童が多い為、少人数の指導員での外出は危険があるため。	身近なところから外出できるよう計画を立てていく。また、外出支援の危険性を指導員が学ぶ。
3	事業所の手作り教材が少ない。	個別療育に使用する教材は、日々のアセスメントから追加しているが、一人一人のお子さまの特性や好みに合った手作り教材が不足している。	スタッフ間でのお子さまのアセスメントと支援方法の情報共有を行い、お子さまに合わせた支援教材の作成を進める。